

隠退記念旅行記（3） 山口市とザビエル

6月4日の朝、新山口（旧小郡）で新幹線下車。ここで夫の高校時代の後輩と待ち合わせをしました。彼は本当にホットな人物で、かつて、自然薯の山芋を掘り上げて、その蔓の先端まで大事に伸ばしたままの形で、長〜い段ボール箱に入れて送って下さったほどです。彼についてはエピソードが山のようにありますが、とにかく再会を喜び合いました。

ここでも私の希望を叶えていただいて、まずは**フランシスコ・サビエル記念教会**へ連れて行っていただきました。この教会堂は幕屋（テント）をイメージしたモダンで斬新な大聖堂でした。



内部のステンドグラスも近代的なパワフルなデザインです。通常 100 名程度のミサとのことでした。管理しておられる方が会堂の維持に莫大な費用が掛かることを心配しておられました。外には井戸辺で説教するザビエル像があり、とても美しく、印象的でした。



裁許状

この教会の真向かいに亀岡公園があって、戦国時代の当地の守護大名・大内義隆（大友宗麟の異母弟）とキリスト教の関係を示す碑がありました。先代の義隆は、1551年にザビエルと二度目の謁見をし、ザビエルに対して布教を許可しました。ところが、家臣に謀反を起こされ、半年も経たずに討死しました。養子であった義長が、ザビエルの後任者トーレスに「**裁許状**」を与え、布教の拠点として、大道寺を与えています。この文書がポルトガルに送られ、保存されていたのです。その写しの石碑です。ザビエルは残念ながら、中国へ渡り1552年に病没しています。義長の代も長くは続かず、1557年、大内家は彼の代で滅亡しています。山口が日本最初に、キリスト教会が誕生した場所となりました。

夫の友人は**瑠璃光寺**に行ってみませんか勧めてくれました。名前がきれいなので、期待が大でした。大内文化の華である瑠璃光寺には、京文化の影響を受けた、優美で華やかながら上品なたたずまいの五重塔がありました。ほっそり、すっきりした見事な塔でした。池や植栽とマッチして、静かな祈りの場所に相応しい雰囲気がありました。お寺そのものはごく普通の曹洞宗でした。また、その後の支配者・毛利家の香山墓所もあり、その参道がうぐいす張りの石畳とされています。なんとそこで、柏手を打つと、カーンと向こうからやまびこのようにこだまが響くのです。静かな参道で何度も手を打ってみて、その音を楽しみました。



お昼になり、瑠璃光寺の側の蕎麦屋に入りました。蕎麦の海苔巻寿司と言うのが、ご当地グルメのようで、さっそくそれをいただきました。美味しかったです。